

7:1 その後、私は四人の御使いを見た。彼らは地の四隅に立ち、地の四方の風をしっかりと押さえて、地にも海にもどんな木にも吹きつけないようにしていた。

7:2 また私は、もう一人の御使いが、日の昇る方から、生ける神の印を持って上って来るのを見た。彼は、地にも海にも害を加えることを許された四人の御使いたちに、大声で叫んだ。

7:3 「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を加えてはいけない。」

7:4 私は、印を押された者たちの数を耳にした。それは十四万四千人で、イスラエルの子らのあらゆる部族の者が印を押されていた。

7:5 ユダ族から一万二千人が印を押され、ルベン族から一万二千人、ガド族から一万二千人、

7:6 アシェル族から一万二千人、ナフタリ族から一万二千人、マナセ族から一万二千人、

7:7 シメオン族から一万二千人、レビ族から一万二千人、イッサカル族から一万二千人、

7:8 ゼブルン族から一万二千人、ヨセフ族から一万二千人、ベニヤミン族から一万二千人が印を押されていた。

ここには第六の封印と第七の封印の間の出来事が記されます。第七の封印が解かれると、その後7つのラッパが用意されていて、それぞれにまた大いなる串難が起こりますが、その前に主への信仰を守り通した者たちが守られることが、ここに明確にされています。

まずは旧約の信仰者を現すイスラエルの民です。12の部族からそれぞれ一万二千人ですが、これは

完全の上にまた完全が表されていると考えられるでしょう。ヨハネが人数を数えることは不可能です。

神様の救いは、旧約も新約においても変わらないことを表します。神様は時代が変わっても永遠に変わらないお方なのです。その神様によって救いをいただいている私たちですから、時代が変わっても安心して信仰を持ち続けましょう。もちろん私たち個人の立場や状況が変わっても一緒です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

